

『秋物語』寸評

- ・各楽器がたがいに物語をはなしあっているような印象をうける
- ・アンサンブルの音域がきわめて密接しているため、全体がまざってニュアンスに富んだひとつの色となっているような
- ・ていねいなダイナミック操作に作者の意図がよみとれる
- ・簡素な和声にさまざまな音型がちりばめられている
- ・ばくぜんと「秋」よりも「さんぽでみつけた秋」等 特定してあったほうがイメージがつかみやすい

完成度をさらに上げるために

- ・B \flat クラリネットは長二度上のホ短調へと移調して記譜します
- ・曲調からスラーがもっとあちこちにつくはず 特に16分音符
- ・m.9 全休符は小節のまんなかにつけて
- ・m.7 b.1,3 m.11 b.1 空虚5度（第3音なしの完全5度）がややきになる

m.=measure 小節番号のことです。

b.=beat 拍のことです。

さびしげな季節がわたうかびます。

持麿 勉